

WebFOCUS 上級コース ～研修受講後のスキルアップサポート～

最終更新日：2014/3/18

本資料は、アシスト WebFOCUS 研修をご受講いただいたお客様からのご質問や、研修ではご案内できなかった情報などを FAQ にまとめたものです。研修受講後のスキルアップの一助として、是非お役立て下さい。

※ご利用上の注意事項は最後のページにまとめられております。ご確認のうえ、ご利用下さい。

第2章 コマンドの利用	
1	Q. 動詞の項目名の間には必ず半角空白を指定するとの事ですが、全角空白ではいけないのでしょうか。
	A. WebFOCUS のコマンドの区切りは必ず半角空白をご使用下さい。全角空白は区切り文字ではなく、文字列として認識されます。
2	Q. 項目名には FIELD 名か ALIAS 名が指定できますが、1つのリクエスト中に FIELD 名と ALIAS 名を混在して指定することはできますか。
	A. FIELD と ALIAS は混在して指定しても問題ありません。
3	Q. READLIMIT は、他の選択条件よりも前に処理されていますか、後に処理されていますか。
	A. READLIMIT の条件も SQL に変換されますが、Oracle では検索結果に対して絞込みがかかるため、他の選択条件よりも後に処理されます。 例えば WHERE STATE EQ '東京都' WHERE READLIMIT EQ 10 と指定した時は、東京都に絞り込んだ後、上位 10 件だけが検索されます。 Oracle では ROWNUM 擬似列に対して条件が掛かります。
4	Q. レコード件数の制限をする際、指定した件数よりもデータベース中の件数が少なかったらどうなりますか。
	A. 件数の絞込みになりますので、指定した件数よりもデータベース中の件数が少なかったら全件表示となります。
5	Q. READLIMIT と RECORDLIMIT について、読み込みレコード数と、最大レコード数の違いについて詳しく教えてください。
	A. 読み込みレコード数はデータベースから取得する値で、データベース側で検索処理が終了した後、WebFOCUS に返す結果セットの件数に条件を掛けます。 最大レコード数はレポートに表示する件数なので、データベース側からは結果セットをそのまま受け取り、WebFOCUS 側で件数に条件を掛けます。
6	Q. スタイル設定のコマンドが少ないように見えます。これで全てなのでしょう。
	A. スタイル設定については、外部ファイルにデフォルトの情報が格納されています。デフォルトでは、以下のディレクトリのスタイルファイルです。 C:\ibi\srv80\home\etc\jdefault.sty

第2章 コマンドの利用	
7	<p>Q. 複数行をコメントアウトする指定はありますか。</p> <p>A. 複数行のコメントアウト機能は、残念ながらありません。Developer Studioのテキストエディタで複数行をまとめてコメントアウト（[Ctrl]+[M]）するか、-GOTOを使用して特定部分を実行せずに処理を遷移させます。例えば、以下のように指定すると、選択条件の部分は実行されません。</p> <pre>TABLE FILE 売上実績 SUM 売上金額 BY 地区名 -GOTO LABEL1 WHERE 地区名 EQ '&AREA' WHERE 納品年 EQ '&YEAR' -LABEL1 END</pre>
8	<p>Q. デバッグ時の便利機能は他にもありますか。</p> <p>A. メッセージビューア、-TYPEがあります。これらは変数にどんな値が渡されているかを確認する場合によく使用します。メッセージビューアを使用する場合は、一段目のツールバーにある実行ボタンの右の▼ボタンをクリックし、[ダイアログマネージャコマンドの表示]を選択します。実行結果のウィンドウで画面が分割され、実行されたコマンドの内容が確認できます。-TYPEは、変数に格納された値をブラウザから確認したい場合に使用します。「-TYPE &変数名」と指定します。結果は、レポートが表示された場合はブラウザのソースに、レポートが表示されなかった場合はそのままブラウザ上に表示されます。</p>

第3章 プロシジャのチューニング	
1	<p>Q. SUMを指定しても集計のSQLが発行されなかった場合、検索を行わずにエラーを返すことはできますか。</p> <p>A. 集計のSQLが発行されたかどうかにより、自動的にエラーを返すことは難しいため、開発時にXRETRIEVAL=OFFを使用していただき、発行されるSQLを確認しながら開発を行って下さい。</p>
2	<p>Q. データベース関連のトレースで、他に有用なトレース機能はありますか。</p> <p>A. 「SQLDI」を使用すると、WebFOCUSがデータベースに対して呼び出しているAPIコールを確認することができます。データベースのより詳細な動作を確認したい場合に使用します。</p>
3	<p>Q. SQLレポートウィザードでは、他にどんなことができますか。</p> <p>A. 既存のSQLファイルが存在する場合は、SQLファイルをそのまま実行したり、既存のSQLファイルのソースをWebFOCUSにインポートしてSQLを編集したりできます。</p>

第4章 日付演算																																								
1	<p>Q. 時刻はどこまで表示できますか。</p> <p>A. ナノ秒まで表示できます。</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">表示</td> <td style="width: 30%;">フォーマット</td> <td style="width: 40%;">日付構成要素</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="border-top: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black;"></td> </tr> <tr> <td>HH</td> <td>HH</td> <td>時間</td> </tr> <tr> <td>HH. MM</td> <td>HHI</td> <td>時間から分まで</td> </tr> <tr> <td>HH. MM. SS</td> <td>HHIS</td> <td>時間から秒まで</td> </tr> <tr> <td>HH. MM. SS. fff</td> <td>HHISs</td> <td>時間からミリ秒まで</td> </tr> <tr> <td>HH. MM. SS. fffffff</td> <td>HHISsmn</td> <td>時間からマイクロ秒まで</td> </tr> <tr> <td>YYYY-MM-DD HH</td> <td>HYMDH</td> <td>年から時間まで</td> </tr> <tr> <td>YYYY-MM-DD HH. MM</td> <td>HYMDI</td> <td>年から分まで</td> </tr> <tr> <td>YYYY-MM-DD HH. MM. SS</td> <td>HYMDS</td> <td>年から秒まで</td> </tr> <tr> <td>YYYY-MM-DD HH. MM. SS. fff</td> <td>HYMDs</td> <td>年からミリ秒まで</td> </tr> <tr> <td>YYYY-MM-DD HH. MM. SS. fffffff</td> <td>HYMDm</td> <td>年からマイクロ秒まで</td> </tr> <tr> <td>YYYY-MM-DD HH. MM. SS. ffffffffff</td> <td>HYMDn</td> <td>年からナノ秒まで</td> </tr> </table>	表示	フォーマット	日付構成要素				HH	HH	時間	HH. MM	HHI	時間から分まで	HH. MM. SS	HHIS	時間から秒まで	HH. MM. SS. fff	HHISs	時間からミリ秒まで	HH. MM. SS. fffffff	HHISsmn	時間からマイクロ秒まで	YYYY-MM-DD HH	HYMDH	年から時間まで	YYYY-MM-DD HH. MM	HYMDI	年から分まで	YYYY-MM-DD HH. MM. SS	HYMDS	年から秒まで	YYYY-MM-DD HH. MM. SS. fff	HYMDs	年からミリ秒まで	YYYY-MM-DD HH. MM. SS. fffffff	HYMDm	年からマイクロ秒まで	YYYY-MM-DD HH. MM. SS. ffffffffff	HYMDn	年からナノ秒まで
表示	フォーマット	日付構成要素																																						
HH	HH	時間																																						
HH. MM	HHI	時間から分まで																																						
HH. MM. SS	HHIS	時間から秒まで																																						
HH. MM. SS. fff	HHISs	時間からミリ秒まで																																						
HH. MM. SS. fffffff	HHISsmn	時間からマイクロ秒まで																																						
YYYY-MM-DD HH	HYMDH	年から時間まで																																						
YYYY-MM-DD HH. MM	HYMDI	年から分まで																																						
YYYY-MM-DD HH. MM. SS	HYMDS	年から秒まで																																						
YYYY-MM-DD HH. MM. SS. fff	HYMDs	年からミリ秒まで																																						
YYYY-MM-DD HH. MM. SS. fffffff	HYMDm	年からマイクロ秒まで																																						
YYYY-MM-DD HH. MM. SS. ffffffffff	HYMDn	年からナノ秒まで																																						
2	<p>Q. 年の日、年の週、月の週を求めることはできますか。</p> <p>A. ■年の日 日付項目から各年の1月1日を1とした、年の日を求めます。 結果の値は平年は1~365、閏年は1~366の数値となります。 COMPUTE 年の日/I3 = DATEDIF(DATEMOV(日付, 'BOY'), 日付, 'D') + 1;</p> <p>■年の週 日付項目から各年の1月1日を第1週とした、年の週を求めます。 1年は52週と数日であるため、結果の値は1~53の数値となります。 COMPUTE 年初の曜日1/W = DATEMOV(日付, 'BOY'); NOPRINT COMPUTE 年初の曜日2/I1 = IMOD(年初の曜日1, 7, 'I1'); NOPRINT COMPUTE 年の週/I2 = (年の日 + 年初の曜日2 - 1) / 7 + 1;</p> <p>■月の週 日付項目から各月の週を求めます。一般的にn月の第n週と呼ばれるものです。 結果の値は1~5の数値となります。 COMPUTE 月初の曜日1/W = DATEMOV(日付, 'BOM'); NOPRINT COMPUTE 月初の曜日2/I1 = IMOD(月初の曜日1, 7, 'I1'); NOPRINT COMPUTE 日付A/A8YYMD=日付; NOPRINT COMPUTE 日I/I2=EDIT(EDIT(日付A, '\$\$\$\$\$99')); NOPRINT COMPUTE 月の週/I2 = (日I + 月初の曜日2 - 1) / 7 + 1;</p>																																							
3	<p>Q. 日付の日本語表示はできますか。</p> <p>A. DATETRAN 関数を使用して日本語表示の日付を取得します。 COMPUTE 日本語表示_曜日無/A14 = DATETRAN(日付, '(YYMD)', '(Ktrd)', 'JA', 14, 'A14'); COMPUTE 日本語表示_曜日有/A20 = DATETRAN(日付, '(YYMD)', '(KtrdXR)', 'JA', 20, 'A20'); 「日本語表示_曜日無」は、「2004年1月1日」の形式で、「日本語表示_曜日有」は、「2004年1月1日 木曜日」の形式で、結果を取得します。</p>																																							

第5章 JOIN と MATCH	
1	Q. DEFINE 項目を JOIN のキー項目に使用した場合、通常の JOIN よりもパフォーマンスが落ちることはありますか。
	A. 作成したキー項目の演算式が SQL に変換できない場合、両方のテーブルのデータを明細で取得し、WebFOCUS 側で結合します。データ量によってはパフォーマンスが低下する場合がありますため、JOIN のチューニングにおいても SQL トレースを取得し、JOIN がデータベース側で行われているかを確認して下さい。
2	Q. 例題3で JOIN 時の修飾フィールド名の設定をしていますが、もし修飾なしのフィールド名で JOIN した場合、どうなりますか。
	A. エラーは発生しませんが、どちらのテーブルに含まれる項目なのかが区別できないため、先に指定されたファイル中の項目しか使用できません。その結果、JOIN しなかった場合と同じ値しか取得できません。
3	Q. 条件付き JOIN を使用しなくても、APPEND + HOLD で同じレポートが作成できそうですが、条件付き JOIN を使用するメリットはありますか。
	A. HOLD + APPEND でも同じ結果を得ることはできますが、一度の検索で結果を得たほうが効率的なため、条件付き JOIN を使用しています。
4	Q. MATCH の手順で、OLD 側と NEW 側で BY フィールドに貼り付けている項目が異なります。BY フィールドはキー項目という説明だったので、同じ項目を貼り付けるべきではないのでしょうか。
	A. MATCH の BY フィールドは、キー項目としての役割と、通常の BY としての（並び替え・グループ化を行う）役割があります。今回は、商品名ごとにも並び替えているため、BY フィールドに指定しています。片方のファイルの BY フィールドが、もう一方のファイルに完全に含まれていれば、問題なく結合可能です。今回の例では、予算商品別ファイルの「予算年月」と「商品番号」は、売上実績2ファイルの BY フィールドに両方含まれているため、問題ありません。

第6章 テクニカルTips	
1	Q. 編集オプションを追加することはできませんか？
	A. 残念ながら追加はできません。任意の記号や文字を表示したい場合は、EDIT 関数や を使用して追加して下さい。
2	Q. 例題1の「売上金額_円」は、文字タイプの項目として作成したのに、なぜ集計されているんですか。
	A. COMPUTE は集計後の値に対して一時項目を作成するため、売上金額はデータベース側で既に集計されています。つまり、集計済みの売上金額を文字タイプに変換後、「円」という文字を追加しています。
3	Q. FTOA 関数の構文について、カンマをいくつ分でカウントすればよいか、簡単な演算式を教えてください。
	A. 以下の演算式で求めることができます。 (桁数 - 1) / 3 フォーマットの桁数から1を引いた値を3で割って、余りを切り捨てた数がカンマの数です。D16なら5となり、D25なら8となります。
4	Q. 4桁区切りのカンマを挿入したい場合は、どうすれば良いですか。
	A. 数値タイプの項目を文字タイプに変換後、EDIT 関数で「,」を文字として挿入します。 売上金額_A という、文字タイプの項目があったとすれば、以下のような演算式で4桁ごとにカンマを挿入して下さい。 EDIT('売上金額_A', '9999,9999,9999,9999');
5	Q. 文字タイプの項目を IN-GROUPS-OF でグループ分けすることはできますか。
	A. できません。GUI で設定しようとしても、フォーマットが数値タイプの項目しか[グループ]タブは表示されません。

その他	
1	Q. HOLD ファイルの出力形式は、ALPHA と BINARY がよく使われています。それぞれの出力形式の特徴を教えてください。
	A. ALPHA は文字型でファイルを出力するので、テキストエディタで HOLD ファイルの中身を確認したい場合によく利用されています。 BINARY はバイナリ形式でファイルを出力するので、中身を確認することはできませんが、文字型の ALPHA よりもファイルサイズが小さくなることが多いです。
2	Q. HOLD ファイルのデフォルトのフォーマットは何ですか。
	A. 「ON TABLE HOLD」のみ指定した場合、HOLD ファイルは BINARY で出力されます。
3	Q. 一時項目に接頭語を指定することはできますか。
	A. DEFINE 項目に対して使用する場合は、特に懸念点はありません。 COMPUTE 項目に対して使用する場合は、エラーにはなりませんが、集計後の値に対して演算を行うため、接頭語の指定が意味を持ちません。集計後の値から割合などを求めたい場合は、二次検索を使用します。詳細は、付録の PA-4 以降に記載がございますので、ご参照下さい。
4	Q. 複数動詞を使用した時、計算結果が正しく求められない場合があります。どこを編集すればよいですか。
	A. 複数動詞と COMPUTE を併用した場合、COMPUTE の演算で意図した値を参照しない場合があります。回避方法については付録の PA-12 をご参照下さい。

※ ご利用上の注意事項※

- ・本書の著作権は株式会社アシストに帰属します。
- ・本書は参考資料であり、掲載されている情報は予告なしに変更されることがあります。
- ・本書で使用している製品の名称は、各社の商標または登録商標です。
- ・本資料の内容に関するご質問はご遠慮ください。
- ・本資料はお客様の責任のもとでご利用ください。これらの使用によりいかなる損害が生じたとしても、株式会社アシストは一切保証致しかねますので、ご了承ください。